

《特別企画》

歯学部における 漢方医学の卒前教育の現状と課題

昭和医科大学医学部 生理学講座 生体制御学部門 教授

砂 川 正 隆



●抄 録●

近年、超高齢社会の進展や多疾患併存患者の増加を背景として、歯科領域においても漢方医学への関心が高まっている。制度面では歯科薬剤点数表への漢方薬収載が進み、教育面では歯学教育モデル・コア・カリキュラムへの和漢薬の収載や歯科医師国家試験への出題が行われるなど、漢方医学は歯科医師が修得すべき基礎的知識として位置づけられつつある。本稿では、歯学部における漢方医学卒前教育の現状について概説した。全国調査では、多くの大学で漢方医学教育が実施されていた。一方で、教育内容や授業時間数、教育体制には大学間差が認められ、学習目標の設定や教育内容の標準化が課題として挙げられた。また、歯科医師国家試験では歯科疾患に対する漢方薬の適応を問う出題がみられ、実践的教育の重要性が示唆された。今後は、歯科漢方医学教育カリキュラムを基盤として卒前教育の到達目標を明確化し、実践的な漢方医学教育の充実を図ることが求められる。

キーワード：漢方医学、歯学教育、卒前教育、歯学教育モデル・コア・カリキュラム、歯科医師国家試験

I. はじめに

日本では漢方医学の臨床応用が広く普及しており、医師の80%以上が日常診療において漢方薬を使用していると報告されている¹⁾。その背景には、1967年以降の医療用漢方製剤の薬価収載の進展や、エキス製剤の品質安定化、さらには日本東洋医学会を中心とした教育・研究活動の推進がある。

一方、歯科領域における漢方薬の使用頻度は医科と比較すると依然として低いものの、近年では口腔乾燥症、舌痛症、顎関節症、口内炎など歯科領域のさまざまな疾患や症状に対して漢方治療が応用されており^{2, 3)}、歯科診療においても漢方医学への関心が高まっている。

近年の超高齢社会の進展に伴い、歯科医療においても多疾患併存やポリファーマシーを有する患者への対応が求められるようになった。また、患者の全身状態

や生活背景を考慮した包括的診療の重要性が高まるなか、個々の体質や病態を重視する漢方医学は、歯科医療においても有用な視点を提供するものとして注目されている。

制度面においても、歯科領域における漢方医学の位置づけは変化している。2012年に歯科薬剤点数表へ初めて漢方薬が収載され、その後の追加収載を経て、2026年現在では13処方（立効散、半夏瀉心湯、黄連湯、茵陳蒿湯、平胃散、五苓散、白虎加人参湯、排膿散及湯、葛根湯、芍薬甘草湯、補中益気湯、十全大補湯、桂枝加朮附湯）が掲載されている。このような制度的整備は、歯科医師が漢方薬に関する基本的知識を修得する必要性を高める要因となった。

教育面では、2016年度改訂歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて初めて「和漢薬（漢方薬）」が明示的に収載され、さらに2023年実施の第116回歯科医師国家試験では和漢薬に関する問題が初めて出題さ

れた。このように、漢方医学は歯科医師が修得すべき基礎的知識として位置づけられつつある。

そこで本稿では、歯学部における漢方医学卒前教育の現状について、歯学教育モデル・コア・カリキュラムおよび歯科医師国家試験の動向、ならびに各大学における教育実践の現状を踏まえて概説し、今後の課題について考察する。

Ⅱ. 歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおける漢方医学

2001年に初めて策定された歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいては、漢方医学あるいは和漢薬に関する明確な記載はみられなかった。当時の歯学教育では、西洋医学に基づく診断および治療体系の修得が中心であり、漢方医学を体系的に学ぶ機会は限られていた。

その後、歯科医療を取り巻く社会的ニーズの変化や漢方医学の臨床応用の拡大を背景として、2016年度改訂版において初めて「和漢薬（漢方薬）」が明示的に収載された。これは歯学教育における漢方医学の位置づけを示す大きな転換点であり、歯科医師が修得すべき基本的薬物療法の一つとして認識されるようになったことを意味している。

たことを意味している。

同カリキュラムでは、和漢薬を含む薬物療法の基本的事項を理解し、薬物の作用や副作用、有害事象について説明できることが求められている。さらに、2022年度改訂版では、副作用・有害事象の種類や薬物の連用・併用による影響についても理解することが学修目標として示されており、和漢薬を含めた適切な薬物療法を実践するための基礎的知識の修得が重視されている。

このように、和漢薬は歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて継続的に位置づけられており、歯科医師が修得すべき薬物療法の一部として定着しつつあることがうかがえる。一方で、モデル・コア・カリキュラムには到達目標が示されているものの、具体的な教育方法や授業時間数については各大学に委ねられている。

Ⅲ. 歯学部における漢方医学教育の実施状況

歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて和漢薬が収載されたことに伴い、各歯科大学・大学歯学部では漢方医学教育への取り組みが進められている。

日本歯科医学会「歯科における漢方薬使用に関する

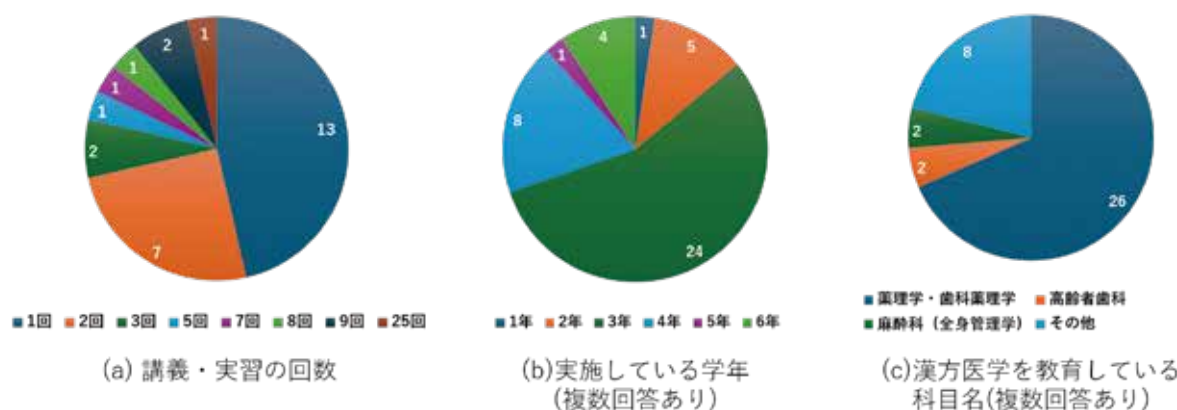


図1 歯学部における漢方医学教育の実施状況

全国の歯科大学・大学歯学部を対象としたアンケート調査結果を示す。(a)漢方医学教育の講義回数、(b)教育実施学年、(c)漢方医学教育を担当する講座・科目。多くの大学で漢方医学教育が実施されていたが、講義回数、実施学年および担当科目には大学間で差異が認められた。

(日本歯科医学会 歯科における漢方薬使用に関するワーキンググループ報告書⁴⁾より改変)

Fig. 1 Current status of Kampo medicine education in Japanese dental schools.

(a)Number of lectures, (b)academic year of instruction, and (c)departments responsible for Kampo medicine education. Modified from Ref. ⁴⁾

ワーキンググループ」が2025年に、全国の歯科大学・大学歯学部および附属病院を対象に実施した調査によれば、29歯学部中28校（96.6%）において漢方医学に関する講義が実施されていた⁴⁾。また、附属病院では29施設中26施設（89.7%）で漢方薬が処方されていた。教育内容としては、漢方医学の歴史や基本概念、生薬・漢方製剤の特徴、代表的な漢方薬の適応および副作用、歯科疾患への応用などが含まれていた。

教育担当者については、薬理学、口腔内科学、口腔外科学、歯科麻酔学などの歯学部教員が中心であったが、医学部の漢方専門医や外部講師が担当する大学も認められた。教育方法は講義形式が主体であり、一部の大学では症例提示や実習が実施されていた。また、附属病院に漢方外来を設置している施設では、診療を通じて漢方医学を学ぶ機会も提供されていた。

一方で、授業時間数や教育内容には大学間で差が認められた。漢方医学を独立した科目として教授している大学は限られており、多くは薬理学や口腔内科学など既存科目の一部として取り扱われていた（図1）。

IV. 歯科医師国家試験における漢方医学

歯学教育モデル・コア・カリキュラムへの和漢薬の収載に続き、近年では歯科医師国家試験においても漢方薬が出題されるようになった。

第116回歯科医師国家試験（2023年）では、在宅療養におけるポリファーマシーの要因を問う設問（A40）の選択肢として「和漢薬への変更」が提示され、漢方薬が初めて国家試験に登場した。その後、第118回歯科医師国家試験（2025年）では「抜歯後の鎮痛に用いられるのはどれか」という設問（B85）において立効散が正答肢として出題され、第119回歯科医師国家試験（2026年）では「アフタ性口内炎に有効なのはどれか」という設問（B77）において半夏瀉心湯が正答肢として出題された。いずれも歯科薬剤点数表に収載されている漢方薬であり、歯科臨床における適応に基づいた出題であった。

これらの出題で特徴的なのは、漢方医学そのものを問う独立した設問ではなく、歯科疾患の診断や治療に関する問題の選択肢として漢方薬が組み込まれている点である。このことは、漢方薬が歯科臨床における薬

物療法の一つとして位置づけられていることを示唆している。

今後も、口内炎、口腔乾燥症、抜歯後疼痛、顎関節症など、歯科領域において漢方薬が用いられる疾患を題材として、治療薬の選択や適応を問う形式で出題される可能性が高いと考えられる。そのため、卒前教育においては漢方医学を独立した知識として教授するだけでなく、歯科疾患と関連付けながら実践的に教育することが重要である。

V. 卒前教育における課題

歯学部における漢方医学教育は全国的に普及しつつあるものの、その教育内容や実施体制にはなお課題が残されている。

日本歯科医学会「歯科における漢方薬使用に関するワーキンググループ」が実施した全国調査では⁴⁾、多くの歯学部で漢方医学教育が実施されている一方、学習目標の設定や教育内容の標準化が課題として挙げられた。現在は各大学が独自に教育内容を構築しているため、講義時間数や教育方法、到達目標には大学間で差異が認められる。

また、教育内容についても検討が必要である。漢方医学は本来「証」に基づく診断と治療を特徴とするが、限られた卒前教育の中でどの範囲まで教授すべきかについては十分な合意が得られていない。一方、歯科医師国家試験では、立効散や半夏瀉心湯のように歯科疾患に対する漢方薬の適応が問われており、卒前教育においても歯科臨床との関連を重視した教育が求められる。

さらに、教育体制の整備も重要な課題である。漢方医学を専門とする教員は歯学部には必ずしも多くなく、教育担当者の確保が困難な大学も存在する。また、教育は講義中心となる傾向があり、症例検討や臨床実習など実践的な学習機会は十分とはいえない。

附属病院調査では、漢方薬を処方していない施設において、知識不足や経験不足、服薬指導への不安などが理由として挙げられていた。これらの結果は、卒前教育の段階から漢方薬の適応、副作用、薬物相互作用について体系的に学ぶ必要性を示している。

このような状況を踏まえると、今後は教育内容の標

学習目標

GIO 東洋医学的アプローチを用いた歯科診療を行うために、必要な漢方薬の基本的知識を習得する。

SBOs

1. 東洋医学と西洋医学の違いを説明できる。
2. 漢方薬について、その概要を説明できる。
3. 歯科口腔領域の疾患に使用する漢方薬を列挙できる。
4. 漢方薬の相互作用や副作用、使用上の注意を説明できる。
5. 漢方薬を用いた治療方針を説明できる。

授業概要

東洋医学の歴史、思想、診断治療体系を学び、西洋医学との違いについて理解する。また、現在求められている統合医療の基礎概念を習得し、漢方薬を用いた治療に対する理解を深めるとともに、歯科口腔領域における代表的漢方薬の使用法と効果、副作用に関する知識についても学習する。

授業計画 (1-2コマ)

1. 東洋医学と西洋医学(弁証論治、方証相対、病名漢方療法)
2. 口腔疾患に有効な漢方薬、相互作用と副作用

図2 歯科漢方医学教育カリキュラム案 (2016年日本歯科医学会提案)

歯科漢方医学教育におけるGIO (General Instructional Objective) およびSBOs (Specific Behavioral Objectives) を示す。

Fig. 2 Proposed Curriculum for Dental Kampo Medicine Education by the Japanese Association for Dental Science

General Instructional Objective (GIO) and Specific Behavioral Objectives (SBOs) proposed for dental Kampo medicine education.

準化と到達目標の明確化が必要である。日本歯科医学会が提案した「歯科漢方医学教育カリキュラム案」(図2)を基盤として⁴⁾、歯学部卒前教育における標準的な学修内容および到達目標を整備し、全国的な教育水準の均てん化を図ることが求められる。

加えて、卒前教育のみならず卒後教育の充実も重要な課題である。漢方医学は実際の症例を経験しながら理解を深める側面が大きい、歯科領域における卒後教育の機会はずしも十分ではない。現在、漢方医学に関する教育は日本歯科東洋医学会をはじめとする学会や研究会などを中心に実施されているものの、大学における体系的な卒後教育は限定的である。卒前教育で修得した基礎知識を臨床実践へと発展させるためには、生涯教育を見据えた継続的な教育体制の整備が必要と考えられる。

Ⅵ. おわりに

近年、歯学教育における漢方医学の位置づけは大き

く変化した。歯学教育モデル・コア・カリキュラムへの収載や歯科医師国家試験への出題を通じて、漢方医学は歯科医師が修得すべき基礎的知識として定着しつつある。一方で、教育内容や到達目標、教育体制には大学間差が認められ、標準化された教育体制の構築が課題となっている。今後は、日本歯科医学会が提案する歯科漢方医学教育カリキュラムを基盤として卒前教育における標準的な学修内容と到達目標を整備するとともに、卒後教育を含めた継続的な教育体制を構築し、歯科臨床に活用できる実践的な漢方医学教育の充実を図ることが求められる。

引用文献

- 1) 日本漢方生薬製剤協会：漢方薬処方実態調査2011, <https://www.nikkankyo.org/serv/pdf/jittaichousa2011.pdf> (最終アクセス日 2026. 5. 26).
- 2) 小澤夏生：口腔領域の漢方治療, 医歯薬出版, 東京, 2024.
- 3) 砂川正隆, 王宝禮, 影向範昭, 他：歯科口腔外科における

漢方薬の使用状況—大学病院における使用実態調査—, 日本
歯科東洋医学会誌, 29 (1-2) : 15-23, 2010.

4) 日本歯科医学会 歯科における漢方薬使用に関するワーキ
ンググループ: 歯科大学/大学歯学部と附属病院における

漢方医学教育および漢方薬使用に関するアンケート調査報
告書, [https://www.jads.jp/assets/pdf/activity/shikairyō/
kanpo.pdf](https://www.jads.jp/assets/pdf/activity/shikairyō/kanpo.pdf) (最終アクセス日 2026. 5. 26).

Current Status and Challenges of Undergraduate Education in Japanese Traditional (Kampo) Medicine at Dental Schools

Professor, Department of Physiology, Showa Medical University School of Medicine

Masataka SUNAGAWA, D.D.S., Ph.D.

Interest in Japanese traditional (Kampo) medicine in dentistry has increased in recent years, partly due to population aging and the growing number of patients with multiple comorbidities. From an institutional perspective, Kampo medicines have been increasingly included in the dental drug fee schedule. In dental education, Kampo medicine has been incorporated into the Model Core Curriculum for Dental Education and has also been introduced into the National Dental Examination. Consequently, Kampo medicine is increasingly recognized as fundamental knowledge that dentists should acquire.

This article reviews the current status of undergraduate Kampo medicine education in Japanese dental schools. A nationwide survey revealed that Kampo medicine education is provided in many dental schools. However, considerable differences among institutions were identified with regard to educational content, teaching hours, and educational systems. In addition, the establishment of learning objectives and the standardization of educational content remain important challenges. Recent National Dental Examination questions have assessed knowledge of the indications of Kampo medicines for oral diseases, highlighting the importance of practical education.

To further enhance undergraduate Kampo medicine education, it is necessary to clarify educational objectives and promote practical educational programs based on the proposed curriculum for dental Kampo medicine education.

Key words : Japanese Traditional (Kampo) Medicine, Dental Education, Undergraduate Education,
Model Core Curriculum for Dental Education, National Dental Examination